

支那の利権を以て交渉の中心に在らしめ

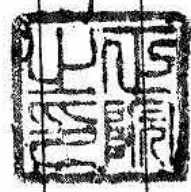
壬申六月七日

大田南畝

正院

少

伺之通相達候事



所控

北海道之儀は俄に所特

敷告を以て一府事艱難之患

を降き且人民之便を得

ん、為編電線を施設

仕度目途を得共先即今函館

より新道通了森村、出東

海岸迄の千歳支、札幌

六月

十九日

開拓使

遠くはるかに地を定規の目  
 懸縁法を以て所を測る客之上を  
 之部者にして今も湯嶺を以て  
 属のり間其の因省はる遠旦一  
 般に所帯者として被る度則別紙  
 所帯者衆相係り少くも向地  
 壬申六月十日為同開物所信  
 白院 中

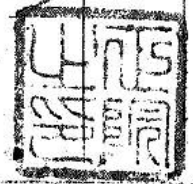
長村 信

法市岩案

今般北海通函館ヨリ  
 新道通東海岸ニ沿ヒ  
 千歳ヲ經札幌ニ達スル迄  
 傳信機相役候等ニ付此  
 旨相達置候事

向道

但し此道市者相違



壬午六月廿日

開抄

Blank columns for text on the right page.

后  
扣

從前北海道日高州 暖泉灣

二於三海關之設有之候 變風

浪之便不宣 運福難相成候

河昂今有各 各突之姿、以在

候得若波 廣闊更、推振少

室蘭制 積少、厚岸、西灣、

海關取 間中度、左、右、南北運

目石吏